

平成25年度調査・研究委員会臨時委員会議事録

◇日時：平成25年8月27日（火） 9:20～11:20

◇会場：北海道立文書館打合せ室

◇出席者（8名）

金谷委員長・小川委員・小高委員・呉屋委員・富田委員

オブザーバー：早川和宏氏

蘆原・山田（事務局）

1 開会

委員長あいさつ

2 議題

（1）専門職員に関するアンケート調査について

アンケートの内容について以下のとおり協議した。

- ・ 対象は国立公文書館資料集に掲載されている自治体の（公）文書館に限定する。
- ・ 岡山セミナーで話題になった「専門職員の能力として何が必要なのか」は聞いておきたい。古文書が読める必要はあるのか、行政経験があった方がいいのか、学芸員や司書が望ましいのか。専門職として何をイメージすればいいのかというところに最終的につながる。
- ・ どういう職員が専門職員か、その人は何をしているかという問いが必要。
- ・ 設問は基本的に職員全体にした方がいい。その中で、専門職として特別な位置づけをしている人の網かけを館にしてもらう。
- ・ 全職員の業務内容を書いてもらい、そのうち専門職は誰かというのを館に書いてもらおうと、専門職しか専門的な業務をしていない、あるいは結局みんな同じようなことをやっているといったことがわかる。
- ・ そもそも館によって専門職員の考え方は違う。最初から資格のある人を探るといふのと、研修で館の中で育てていってというものもある。
- ・ 資格制度がない中で館としてどう専門職を認知しているかという部分で、現在の実態と将来的な部分、常勤でまわしていくから必要ないとか、こういう立場の人を採りたい等の認識を引き出すアンケートにしたい。
- ・ 専門職だけど非常勤、というのも浮き彫りにしたい。
- ・ 一覧表の意義は大きい。全国の公文書館全部をまとめてみたところ、職員総数はこれだけで、そのうちこういう業務をやっている人が〇%とか、専門職はこういう傾向がある、ということが見える。

以上の協議をもとに担当委員があらためてアンケート案を作成し、メールで検討することとした。

（2）全国大会に向けて

- ・ 研修会講師の辻川さんには、専門職員アンケート結果をできるだけ早くまとめ、提供することとした。
- ・ 大会ポスターセッションに参加し、アンケート結果を反映させたものを作る。大会時には速報的なものになるので、改めて精査し、今年度の『記録と史料』に掲載できるかどうか広報・広聴委員会に諮ることとした。

(3) 「公文書館機能整備のための手引き」(仮称)作成について

担当委員より示されたたたき台をもとに、以下のとおり協議した。

- ・ 内容構成は、①事例を取り上げた部分、②基本事項などを書いたもの、③参考資料の3部形式とする。
- ・ ①事例集は自治体の人にまとめてもらったものを基本とし、例規のURLなど参考情報も入れて、利用に拡がりができるようにする。
- ・ 掲載する自治体は、超ミニマム・ミニマム・ゴールドの三種類の館があるようにバランスよく配置する。公文書管理法施行前後に整備された自治体を意識的に取り上げる。
- ・ 項目は、公文書館機能に関わる当該自治体の特色、根拠例規、設置に至るまでの経過など。人口や予算規模などもあると、機能のないところが自分たちと同じくらいの自治体はどうやっているかの参考になる。システムの導入の状況や、公文書館機能の整備のための経費を載せるのもよい。書庫や閲覧スペースの形態、また移管元の数や収集量など基本的な事項をできるだけ入れて、自分たちが何かやろうと思ったときに参考にできるようにする。
- ・ 公文書館機能を担保している概念図のようなものがあるとよい。
- ・ 自治体事例をひとつのフォーマットでまとめ、データは随時修正を図りながら蓄積する。
- ・ ②基本事項としては、全史料協のスタンス、機能の担保のための方策、ねらいを伝える。なぜ公文書館機能が必要かという基本的なことも含める。
- ・ ③参考資料には、詳しく知るための文献集を載せる。散在する情報をまとめ、もう少し調べたい場合の情報源として利用してもらう。ミニマムモデルもわかりやすく盛り込む。
- ・ 事例集は4月執筆依頼、6月締切、10月仕上げとする。その他の記述は6月以降の分担執筆とする。

(4) その他

ア. 「公文書館機能普及セミナーin北海道」参加記

- ・ 広報・広聴委員会から依頼されている『記録と史料』への執筆者およびブログにアップする参加記の投稿依頼者を検討した。

イ. 陸前高田の情報発信

- ・ 陸前高田を訪れた方から情報収集し、ブログにアップできるよう調整することとした。

ウ. 岩手セミナーの開催について

- ・ 岩手県との協議方法について検討した。
 - ・ テーマは被災資料の救出と公文書館機能普及の両方になるが、詰め込みすぎないように考慮することとした。
- － 以 上 －